

ステアックス株式会社
STAIRX

オンリーワン企業を目指す 階段製造のプロフェッショナル集団

東京の赤坂迎賓館前公園施設にあるらせん階段には支柱がない。「いったいどこで支えているのか」と専門家も驚く形状になっている。この特殊な階段を手がけたのが、東京・豊島区に本社を構えるステアックスだ。

1991年の創業以来、一貫して階段の専門メーカーとして歩んできた。折原信吾社長によれば、ゼネコンから直接受注する階段メーカーは、全国に6社しかないという。そのなかでも製造が難しい特殊階段を得意とし、実績を積み上げてきた。

東京の渋谷駅近くにある宮下公園の階段も、その大半は同社によって施工されたものだ。

「宮下公園の階段は大型のH形鋼で支えていて、設計や製造も大変でした。とくに気を使ったのは取り付けです。一部の階段は道路上に架けられているので、夜間に道路を通行止めにして工事を行いました。予定した時間内に工事が終わらなければ交通に大きな影響が出てしまいます。出荷前の検査にも細心の注意を払い、当日は無事、時間内に終わることができました」



Company Profile

折原信吾 代表取締役社長

本社：東京都豊島区
設立：1999年2月
売上高：19億円(2023年3月期)
従業員数：58名(2023年9月時点)
銀行取引店：三菱UFJ銀行池袋支店



赤坂迎賓館前公園施設
場所：東京都、設計：TAK建築研究所、施工：鉄建建設、施工年：2020年

当初は営業と設計に特化し、製造は協力会社に依頼していたが、創業から4年目の95年には自社工場をもち、製造も手がけるようになった。これにより製造技術を身に付け、製造ノウハウを自社内に蓄積することができるようになった。

一方、99年2月には大阪に本社のある鋼管メーカー、サンキンのグループ企業となったことで、財務などの基盤が強化された。これ以降は積極的に営業を行い、特殊階段の実績を徐々に増やしていくことになる。建築設計事務所やゼネコンから「難しい階段はステアックスに頼む」という口コミが広がっていき、現在は名だたる大手ゼネコンや設計事務所からの信頼も厚く、階段について相談されることが多い。

「あらゆる階段に対応できる技術力を養い、高品質な階段をスピーディに製造できるシステムを構築するなどの努力をしてきました。特殊階段に力を入れ、ナンバーワンではなくオンリーワンを意識してきたことで、大手の階段メーカーとは違う独自のポジションを目指しています」



宮下公園
場所：東京都、設計・施工：竹中工務店、施工年：2020年



赤坂迎賓館前公園施設内階段の製作風景。階段の製作は、つくばの自社工場で行い設計から施工まで一貫したシステムで管理



階段は3次元構造のため、製作には高い空間認識力が必要。ステアックスでは、正確性と速いスピードを保ち、高品質なものを提供

教育で技術力を高め 働きやすい職場づくりに注力

厚さの異なる鉄板を溶接でつなぎ、組み立てていくのが一般的な階段の造りである。しかし、それは容易なことではない。しかもらせん階段のように複雑な形状の場合には、製作の段取りを綿密に検討しなければならない。段取りが一つでも間違っていると、溶接できない箇所が出てきてしまう恐れがある。

「階段を製作する際は、ゼネコンや設計事務所による設計図をもとにした、製作図面が必要になります。階段は3次元の構造をしているので、製作図面を書くためには高い空間認識力が必要です。当社には製作図面を書く部隊がいて、3DCADなども使いながら製作図面を書き、そのノウハウを社内でも共有するようにしています」

つくばにある工場では難しい特殊階段を受注すると、複数の技術者が図面を確認し、お互いに評価し合う。そうして技術力を高めると同時に、若手の教育も行っているのだ。こうした地道な取り組みにより、あらゆる階段に対応できる技術者集団を育て上げてきたのである。

また、設計から製造まで一貫したシステムで管理することで、高品質な製品をスピーディにつくり上げる体制も整えてきた。

「弊社では、社員が家族といっしょに完成した階段を

見に行くこともあるようです。商業施設や公共施設の階段は、完成したものを目にする事ができるので、社員のモチベーションにもつながっています」

同社は健康経営優良法人に認定されており、社員の健康増進にも積極的に取り組んでいる。そのひとつががん検診だ。35歳になったら一度、40歳を過ぎたら毎年、費用は全額会社負担で検診を受けられる。また、社員の働きやすさを第一に考える社長の考えで、コロナ前からテレワークを導入したり、仕事をする場所を社員が選べるようにするなどの環境づくりも社員から好評だ。こうした積み重ねの結果、男女の隔たりなく誰でも活躍できる職場環境に贈られる「えるぼし認定」や、東京都のテレワークアワード推進賞を受賞するなど、各機関からの評価も高い。

「若手社員の提案には刺激を受けることが多いですね。最近では、若手のアイデアをきっかけにSNSでの情報発信の挑戦や、つくば工場には『ステアックスランド』と呼ばれる階段の展示場と言えるような場所もつくりました。若手社員のなかには自分たちの仕事をもっと世の中の人に知ってほしいと思っている者も多く、この仕事が好きだという気持ちがひしひしと伝わってきます」

そう語る折原社長自身も、階段を愛する気持ちは誰にも負けないだろう。まさに階段のプロフェッショナル集団である。